

第1章 将来都市像

1 まちづくりの基本的考え方

住民の生活圏の拡大や住民ニーズの多様化・高度化に対応した質の高い行政サービスの提供が求められている中、行財政基盤を強化し様々な課題に取り組むため、平成15年6月6日、平成の合併としては千葉県内第1号として旧野田市と旧関宿町が合併した。

少子高齢化が進む中、野田市の人口は、従来のように右肩上がりでの推移することは考えにくい状況にあり、このようなトレンド^{注1)}に任せたまでは市民ニーズにこたえるべくまちづくりを行っていくことは困難と考える。したがって、こうした時代に本市が持続的な成長を続けるには、都市間競争に打ち勝つ利便性、住みやすさ、生活環境の一層の向上を図り、住んでみたい、住み続けたいと思えるような魅力あるまちづくりに取り組み、それらの成果として若い世代が集い、バランスのよい世代構成を実現することで、今までよりもさらに、より多くの市民の力をまち全体の活力の創出と向上につなげていくことが重要となっている。

一方、地方分権時代のまちづくりは、市民の共感と参画によって進められてこそ、魅力ある生き生きとしたまちづくりが可能になるといえる。つまり、まちの魅力をさらに高める過程での様々な市民参加、市民と行政との連携が“まちづくりの鍵”であり、さらには、魅力あるまちの実現に向けて、市民自ら努力することが一層重要となっている。

これまでのまちづくりをみると、旧野田市も旧関宿町も地域に暮らす住民の方々との相互の協力によるまちづくりが必要と考え、徹底した住民参加を実施し、住民主体の考えに立って21世紀のまちの将来像を描いてきた。こうした経緯も踏まえ、これからのまちづくりを進めるにあたっては、21世紀という時代にさらに重みを増した住民主体の考え方を継承し、「21世紀の新しい時代を担う市民自らの手による活力と魅力あるまちづくり」を基本的考え方（基本理念）とする。

注1) トレンド……………すう勢。傾向。動向。

2 将来都市像

市民が創る ① ふれあいのまち ② 野田 ー 活力と ③ みどりゆたかな ④ 文化 ⑤ 福祉 ⑥ 都市

- ①「市民が創る」は、市民参加による市民が主役のまちづくりを進めることを表す。
- ②「ふれあい」は、市民が互いの人権を尊重し、人と人のふれあいを大切にするとともに、多面的なまちの魅力とのふれあいを表す。
- ③「活力」は、多様化した市民のニーズに応えるための長期持続的成長可能なまちの活力を表す。
- ④「みどり」は、水や緑地など野田市の特性である豊かな自然を表す。
- ⑤「文化」は、教育環境・生涯学習環境の充実から生まれる市民の精神的な豊かさと、野田市の古くからの良さである伝統・歴史・文化を表す。
- ⑥「福祉」は、高齢者や障害者を含めて全ての人が安心して暮らせるための健康・福祉・医療等を表す。

まちづくりの基本的考え方（基本理念）の下、市民が自ら、人、心、文化、環境、未来との様々なふれあいの中で喜びを創りだすまちをめざし、将来都市像を「市民が創るふれあいのまち野田」とする。さらに、本市のめざすまちづくりの方向性を表現した、「活力とみどりゆたかな文化福祉都市」をサブテーマとして設ける。

3 基本目標

将来都市像の実現に向けて取り組むべき施策形成の基本目標として、以下の6項目を設定した。

- 基本目標1 市民と行政の連携
- 基本目標2 保健・福祉・医療の充実
- 基本目標3 教育・文化の充実
- 基本目標4 生活環境の整備
- 基本目標5 産業の振興
- 基本目標6 都市基盤の整備